

スコアシート		実施設計段階							
配慮項目		環境配慮設計の概要記入欄		評価点	重み係数	評価点	重み係数	全体	
Q 建築物の環境品質								3.4	
Q1 室内環境					0.40		-	4.2	
1	音環境			3.0	0.15	3.3	1.00	3.2	
	1.1 室内騒音レベル		—	3.0	0.50	3.0	0.50		
	1.2 遮音			3.0	0.50	3.6	0.50		
	1	開口部遮音性能	住戸の開口部は遮音等級T-4以上としている。	3.0	1.00	5.0	0.30		
	2	界壁遮音性能	—	-	-	3.0	0.30		
	3	界床遮音性能(軽量衝撃源)	—	-	-	3.0	0.20		
	4	界床遮音性能(重量衝撃源)	—	-	-	3.0	0.20		
	1.3 吸音		—	-	-	-	-		
2	温熱環境			3.0	0.35	5.0	1.00	4.7	
	2.1 室温制御			3.0	0.50	5.0	1.00		
	1	室温	—	3.0	0.63	-	-		
	2	外皮性能	全住戸で断熱等性能等級5以上を確保している。	3.0	0.38	5.0	1.00		
	3	ゾーン別制御性	—	-	-	-	-		
	2.2 湿度制御		—	3.0	0.20	-	-		
2.3 空調方式		—	3.0	0.30	-	-			
3	光・視環境			2.6	0.25	4.0	1.00	3.8	
	3.1 昼光利用			1.8	0.30	4.0	0.50		
	1	昼光率	専用居室は2.0%以上。	1.0	0.60	5.0	0.50		
	2	方位別開口	—	-	-	3.0	0.30		
	3	昼光利用設備	—	3.0	0.40	3.0	0.20		
	3.2 グレア対策			3.0	0.30	4.0	0.50		
	1	昼光制御	全住戸に庇(バルコニー)があり、カーテンボックスを設けている。	3.0	1.00	4.0	1.00		
	3.3 照度		—	3.0	0.15	-	-		
3.4 照明制御		—	3.0	0.25	-	-			
4	空気質環境			4.2	0.25	4.3	1.00	4.3	
	4.1 発生源対策			5.0	0.60	5.0	0.63		
	1	化学汚染物質	F☆☆☆☆の建材を使用、かつ、全面的に低VOCの建築材料を使用している。	5.0	1.00	5.0	1.00		
	4.2 換気			3.0	0.40	3.3	0.38		
	1	換気量	—	3.0	0.50	3.0	0.33		
	2	自然換気性能	開閉可能な窓面積は居室面積の1/8以上。	-	-	4.0	0.33		
	3	取り入れ外気への配慮	—	3.0	0.50	3.0	0.33		
	4.3 運用管理			-	-	-	-		
1	CO ₂ の監視	—	-	-	-	-			
2	喫煙の制御	—	-	-	-	-			
Q2 サービス性能				-	0.30	-	-	2.8	
1	機能性			2.5	0.40	2.6	1.00	2.5	
	1.1 機能性・使いやすさ			3.0	0.40	3.0	0.60		
	1	広さ・収納性	—	-	-	-	-		
	2	高度情報通信設備対応	—	-	-	3.0	1.00		
	3	バリアフリー計画	—	3.0	1.00	-	-		
	1.2 心理性・快適性			1.0	0.30	2.0	0.40		
	1	広さ感・景観	—	-	-	3.0	0.50		
	2	リフレッシュスペース	—	-	-	-	-		
	3	内装計画	—	1.0	1.00	1.0	0.50		
	1.3 維持管理			3.5	0.30	-	-		
	1	維持管理に配慮した設計	防汚性の高い建材を採用している。	4.0	0.50	-	-		
	2	維持管理用機能の確保	—	3.0	0.50	-	-		
2	耐用性・信頼性			3.1	0.30	-	-	3.1	
	2.1 耐震・免震・制震・制振			3.0	0.50	-	-		
	1	耐震性(建物のこわれにくさ)	—	3.0	0.80	-	-		
	2	免震・制震・制振性能	—	3.0	0.20	-	-		
	2.2 部品・部材の耐用年数			3.4	0.30	-	-		
	1	躯体材料の耐用年数	劣化対策等級3を取得。	5.0	0.20	-	-		
	2	外壁仕上げ材の補修必要間隔	—	1.0	0.20	-	-		
	3	主要内装仕上げ材の更新必要間隔	—	3.0	0.10	-	-		
	4	空調換気ダクトの更新必要間隔	—	3.0	0.10	-	-		
	5	空調・給排水配管の更新必要間隔	VP管材を使用。	5.0	0.20	-	-		
	6	主要設備機器の更新必要間隔	—	3.0	0.20	-	-		
	2.4 信頼性			3.0	0.20	-	-		
	1	空調・換気設備	—	3.0	0.20	-	-		
	2	給排水・衛生設備	—	3.0	0.20	-	-		
	3	電気設備	—	3.0	0.20	-	-		
	4	機械・配管支持方法	水平震度1.5とする。	4.0	0.20	-	-		
5	通信・情報設備	—	2.0	0.20	-	-			

3	対応性・更新性			3.0	0.30	3.0	1.00	3.0
	3.1 空間のゆとり			-	-	3.0	0.50	
	1	階高のゆとり	-	-	-	3.0	0.60	
	2	空間の形状・自由さ	-	-	-	3.0	0.40	
	3.2 荷重のゆとり		-	-	-	3.0	0.50	
	3.3 設備の更新性			3.0	1.00	-	-	
	1	空調配管の更新性	-	3.0	0.20	-	-	
	2	給排水管の更新性	-	3.0	0.20	-	-	
	3	電気配線の更新性	-	3.0	0.10	-	-	
	4	通信配線の更新性	-	3.0	0.10	-	-	
	5	設備機器の更新性	-	3.0	0.20	-	-	
	6	バックアップスペースの確保	-	3.0	0.20	-	-	
Q3 室外環境(敷地内)				-	0.30	-	-	3.0
1	生物環境の保全と創出		-	3.0	0.30	-	-	3.0
2	まちなみ・景観への配慮		-	3.0	0.40	-	-	3.0
3	地域性・アメニティへの配慮		-	3.0	0.30	-	-	3.0
	3.1	地域性への配慮、快適性の向上	-	3.0	0.50	-	-	
	3.2	敷地内温熱環境の向上	-	3.0	0.50	-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性				-	-	-	-	3.3
LR1 エネルギー				-	0.40	-	-	3.7
1	建物外皮の熱負荷抑制		全住戸で断熱等性能等級5以上を確保している。	4.0	0.20	-	-	4.0
2	自然エネルギー利用		-	3.0	0.10	-	-	3.0
3	設備システムの高効率化		BEI=0.79。	4.0	0.50	-	-	4.0
	集合住宅以外の評価			-	-	-	-	
	集合住宅の評価			4.0	1.00	-	-	
4	効率的運用			3.0	0.20	-	-	3.0
	集合住宅以外の評価			-	-	-	-	
	4.1	モニタリング	-	-	-	-	-	
	4.2	運用管理体制	-	-	-	-	-	
	集合住宅の評価			3.0	1.00	-	-	
	4.1	モニタリング	-	3.0	0.50	-	-	
	4.2	運用管理体制	-	3.0	0.50	-	-	
LR2 資源・マテリアル				-	0.30	-	-	2.9
1	水資源保護			3.4	0.20	-	-	3.4
	1.1	節水	節水水栓と節水便器を採用。	4.0	0.40	-	-	
	1.2	雨水利用・雑排水等の利用		3.0	0.60	-	-	
	1	雨水利用システム導入の有無	-	3.0	1.00	-	-	
	2	雑排水等利用システム導入の有無	-	-	-	-	-	
2	非再生性資源の使用量削減			2.7	0.60	-	-	2.7
	2.1	材料使用量の削減	-	3.0	0.10	-	-	
	2.2	既存建築躯体等の継続使用	-	3.0	0.20	-	-	
	2.3	躯体材料におけるリサイクル材の使用	-	3.0	0.20	-	-	
	2.4	躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	-	1.0	0.20	-	-	
	2.5	持続可能な森林から産出された木材	-	2.0	0.10	-	-	
	2.6	部材の再利用可能性向上への取組み	仕上げ材の下地に軽量鉄骨を使用。	4.0	0.20	-	-	
3	汚染物質含有材料の使用回避			3.0	0.20	-	-	3.0
	3.1	有害物質を含まない材料の使用	-	3.0	0.30	-	-	
	3.2	フロン・ハロンの回避		3.0	0.70	-	-	
	1	消火剤	-	-	-	-	-	
	2	発泡剤(断熱材等)	-	3.0	0.50	-	-	
	3	冷媒	-	3.0	0.50	-	-	
LR3 敷地外環境				-	0.30	-	-	3.3
1	地球温暖化への配慮		LCCO2排出率75%。	3.9	0.33	-	-	3.9
2	地域環境への配慮			3.0	0.33	-	-	3.0
	2.1	大気汚染防止	-	3.0	0.25	-	-	
	2.2	温熱環境悪化の改善	-	3.0	0.50	-	-	
	2.3	地域インフラへの負荷抑制		3.2	0.25	-	-	
	1	雨水排水負荷低減	-	3.0	0.25	-	-	
	2	汚水処理負荷抑制	-	3.0	0.25	-	-	
	3	交通負荷抑制	駐輪、駐車スペースを適切な台数分計画している。	4.0	0.25	-	-	
	4	廃棄物処理負荷抑制	-	3.0	0.25	-	-	
3	周辺環境への配慮			3.1	0.33	-	-	3.1
	3.1	騒音・振動・悪臭の防止		3.0	0.40	-	-	
	1	騒音	-	3.0	1.00	-	-	
	2	振動	-	-	-	-	-	
	3	悪臭	-	-	-	-	-	
	3.2	風害、砂塵、日照障害の抑制		3.0	0.40	-	-	
	1	風害の抑制	-	3.0	0.70	-	-	
	2	砂塵の抑制	-	-	-	-	-	
	3	日照障害の抑制	-	3.0	0.30	-	-	
	3.3	光害の抑制		3.7	0.20	-	-	
	1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	光害対策チェックリストは一部達成、広告物照明は不使用。	4.0	0.70	-	-	
	2	屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策	-	3.0	0.30	-	-	

評価する取組み	合計	合計2	No.1	No.2	No.3	No.4	No.5	No.6	No.7	No.8	No.9	No.10	No.11	No.12	No.13
Q2 サービス性能															
1.2.3 内装計画	1.0	1.0	-	-	○	-	-	-	○	-					
1.3.1 維持管理に配慮した設計	7.0		○	○	○	-	○	○	○	-	-	○	-	-	-
1.3.2 維持管理用機能の確保	6.0		-	○	-	-	○	-	-	-	○	○	○	○	-
2.4.1 空調・換気設備	-		○	-	-	-	-								
2.4.2 給排水・衛生設備	2.0	2.0	○	○	-	-	-	-	-						
2.4.3 電気設備	1.0	-	-	-	-	○	-	-							
2.4.5 通信・情報設備	1.0		-	-	○	-	-	-							
Q3 室外環境(敷地内)															
1 生物資源の保全と創出	7.0		2.0	0	2.0	0	1.0	1.0	1.0	0	0	0	0		
2 まちなみ・景観への配慮	3.0		2.0	1.0	0	0	0	0							
3.1 地域性への配慮、快適性の向上	2.0		0	0	0	0	1.0	1.0	0	0					
3.2 敷地内温熱環境の向上	9.0		2.0	2.0	0	1.0	0	0	0	2.0	2.0				
LR1 エネルギー															
2 自然エネルギー利用	-		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
LR2 資源・マテリアル															
1.2.2 雑排水等再利用システム導入の有無			-	-	-	-	-	-	-	-					
2.1 材料使用量の削減	1.0		1.0	-	-										
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用			-	-	-	-	-								
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み	1.0		○	-	-	-									
3.1 有害物質を含まない材料の使用	-														
LR3 敷地外環境															
2.2 温熱環境悪化の改善	7.0		1.0	1.0	0	0	1.0	0	0	1.0	3.0	0			
2.3.3 交通負荷抑制	3.0		1.0	0	1.0	0	1.0	0							
2.3.4 廃棄物処理負荷抑制	3.0		1.0	1.0	1.0	0		0	0						
3.2.2 砂塵の抑制	-		-	-											
3.3.1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	3.0		1.0	2.0											

主な指標

Q1 室内環境

2.1.3 外皮性能

窓システムSC		窓の日射熱取得率(η)		
U値(W/m2K)	窓システム	屋根	外壁	床
住戸部分	窓システムU値	外皮UA値 0.6	η AC 2.2	η AH 1.2
星光率	3.6%			
自然換気有効開口面積率		14.7%		

3.1.1 屋光率

4.2.2 自然換気性能

Q2 サービス性能

1.1.1 広さ・収納性

1.1.2 高度情報通信設備対応

1.2.1 広さ感・景観

1.2.2 リフレッシュスペース

2.2.1 躯体材料の耐用年数

2.2.2 外壁仕上げ材の補修必要間隔

2.2.3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔

2.2.6 主要設備機器の更新必要間隔

3.1.1 階高のゆとり

3.1.2 空間の形状・自由さ

3.2 荷重のゆとり

執務スペース	/人	病床	/床	シングル	ツイン
コンセント容量	VA/m ²				
天井高	m				
リフレッシュスペース		レストスペース			
想定耐用年数	75~90 年				
想定必要間隔	年				
想定必要間隔	年				
想定必要間隔	年				
階高	m				
壁長さ比率					
床荷重	- N/m2				

Q3 室外環境(敷地内)

1 生物資源の保全と創出

3.2 敷地内温熱環境の向上

外構緑化指数	-	建物緑化指数	-				
空地率	-	水平投影面積率	-	地表面対策面積率	-	舗装面積率	-

LR1 エネルギー

1 建物外皮の熱負荷抑制

2 自然エネルギー利用

BPI/BPI _m		－ 断熱等性能等級		等級5 相当	
自然エネルギー直接利用量		MJ/年㎡		採光を満たす教室数	採光を満たす住戸数
				通風を満たす教室数	通風を満たす住戸数
				太陽光	太陽熱等
					蓄電池
BEI/BEI _m	再エネ有	－ 無		－ オフサイト再エネ有	－
一次エネルギー削減率	再エネ有	21%	無	21%	－

LR2 資源・マテリアル

1.2.1 雨水利用システム導入の有無

2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用

2.5 持続可能な森林から産出された木材

3.2.1 消火剤

3.2.2 発泡剤(断熱材等)

3.2.3 冷媒

雨水利用率					
特定調達品目	-	エコマーク商品	-	自治体指定の特定品目等	-
使用比率					
オゾン層破壊係数(ODP)		地球温暖化係数(GWP)			
オゾン層破壊係数(ODP)		地球温暖化係数(GWP)			
オゾン層破壊係数(ODP)		地球温暖化係数(GWP)			

LR3 敷地外環境

2.2 温熱環境悪化の改善

見付面積比	-	隣棟間隔指標Rw	-						
地表面対策面積率	-	屋根面対策面積率	-	外壁面対策面積率	-				
見付面積Sb	-	卓越風向と直交する最大敷地幅Ws	-	m	基準高さHb	-	m		
緑地	-	水面	-	保水性対策面	-	高反射対策面	-	再帰性反射対策面	-